

「僕が目指す人」

後藤 久幸さん 千歳町高添出身

取材 高尾 海音

僕の「優しいおじさん」であり「テコンドーの先生」である伯父は、現役時代国体などで活躍していた。

今では、たくさん生徒を持ち、指導者として、テコンドーにたずさわっている。

伯父がテコンドーに入ったのは、単純に、かっこよかったから、つよくなりたいからだ。スピードのある動き、綺麗な足技、そしてあの速い蹴り。いつしかテコンドーに魅せられていた。

元々空手をやっていた、格闘技などが好きだったようだ。テコンドーに関わっていくうちに「この良さをみんなに伝えたい、教えたい。」そう思うようになってきたと言う。

指導者を目指した。そして、自分の道場を開いた。

現役を引退しても教えるには、どんどん新しくなるルールを学ばなくてはならない。そのため、ほかの指導者との交流もある。自分で、本場韓国に行ったり他県の指導者とともに講習会に参加したりしている。

そして、教えるには動けないと悪いから、自らも走ったり鍛えたりと体力づくりをしている。

年齢を重ねても、まだまだ体力はおとろえないのは自分をしっかり磨いているからだ。

伯父は、「テコンドーをとにかく好きになってもらいたい。」その思いで子供たちとがんばっている。今は、週3、元気な生徒たちとテコンドーをしている。

「テコンドーを好きになってほしい」この思いを僕もずっと受けついでいきたい。そのために僕は、今教えてもらえることをすべて教えてもらいたいと思う。いろんな人にテコンドーを知ってもらい、見てもらいたい。



ふるさとの人とともに④ 柴山神楽を習い白鹿祭りで披露(総合学習)